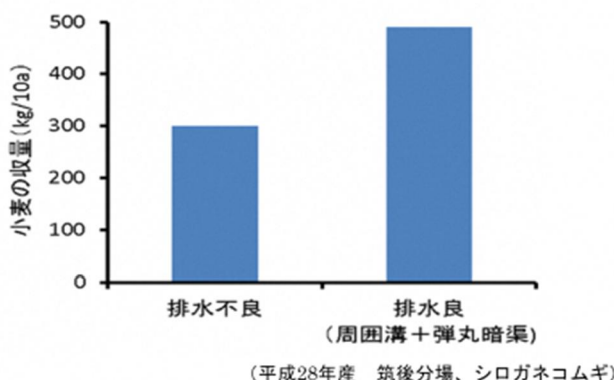


1 排水対策

麦類の生育・収量に最も大きな影響を与えるのは、ほ場の排水性です。弾丸暗きよや水田周りの明きよ(周囲溝)を組み合わせ、ほ場の排水性を高めましょう。

排水対策の効果



2 土壌改良資材の施用

麦類は酸性に弱く、土壌pHが低いと収量・品質が低下します。これまで土壌改良資材の施用が少ないほ場では、作付前に土壌pHを調べ、pHが低い場合は石灰質資材を施用し、pHを適正範囲になるよう矯正します。また、地力維持および人と環境にやさしい農業の推進のため、稲わらは焼却せずにすき込みましょう。

| 施用効果 | 資材名 | 施用量(10a当たり) |
|------|-----------|-------------|
| 酸度矯正 | 生石灰 | 100kg |
| | 炭酸苦土石灰 | 200kg |
| | オイスターミネラル | 100kg~200kg |

3 種子消毒

ヤギシロトビムシによる被害が拡大しています。昨年度被害が大きかったほ場は、クルーザーFS30を使用します。

| 対象病害虫 | 薬剤名 | 処理方法 |
|----------------------|-----------|-------------------------------------|
| ヤギシロトビムシ (右のどちらか) | アドマイヤー水和剤 | 乾燥種子重量の0.15%を粉衣する (種子10kg当たり15g) |
| | クルーザーFS30 | 乾燥種子10kgあたり60mlを種子塗抹 |
| 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 | ベンレートTコート | 乾燥種子重量の0.5%を粉衣する (種子10kg当たり50g) |

4 施肥

施肥基準は次表のとおりです。大豆後作の場合は、水稻後作に比べ地力窒素（大豆根粒菌による窒素分の残存など）の影響が大きく、通常の施肥管理では倒伏を招きます。倒伏すると、品質が大きく低下するので、倒さない麦づくりを心掛けましょう。

（10 a あたり施用量）

| 品種名 | 基肥 | 追肥 | |
|---------|-----------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| | | 1回目 | 穂揃い期 |
| シロガネコムギ | ちくごのめぐみ444 40kg (大豆あとは20kg) | 麦追肥一発2号 40kg | — |
| ちくしW2号 | ちくごのめぐみ444 40kg (大豆あとは20kg) | 硬質小麦専用追肥 (3004) 35kg | 硫安10kg または 尿素4kg (水100ℓ) |

5 播種

播種適期は11月20日～12月5日です。10 a 当たりの播種量は、適期播種の場合6～7kgです。遅播きの場合は、3割程度増やします。なお、大豆後作の場合は、水稻後作の場合より10 a あたり1kg程度播種量を減らします。

6 雑草対策

1つの除草剤だけに頼らず、体系的な処理を行いましょう。

| | 薬剤名 | 処理時期 | 10 a 使用量 | 留意事項 |
|-------------------|----------------------------|----------------------------|-------------|-----------------------|
| | ラウンドアップマックスロード またはバスタ液剤 | 播種前～出芽前まで | 500ml | 必ず土壌処理剤も散布する。 |
| 土壌 処 理 剤 | リベレーターフロアブル | 播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科1葉期) | 60～80 ml | 乳剤、粒剤ともに大雨の前後には使用しない。 |
| | リベレーターG (細粒剤) | 播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科1葉期) | 4～5kg | 播種後できるだけ早く処理する。 |

○液剤の希釈水量は100ℓ/10 a

- ※1) 土壌処理剤の中には、麦出芽後も散布可能なものがありますが、播種後できるだけ早く処理した方が、除草効果は安定します。
- ※2) ラウンドアップマックスロードとリベレーターフロアブルを混ぜると、成分が沈殿するため混用はできません。

農作業事故のない豊かな実り、あなたから